

二本木復興まちづくり 勉強会第1回

- 日 時：平成29年5月19日（金）午後7時半～午後9時
- 場 所：くまもと森都心プラザ6階 D会議室
- 出席者：地域の方：11名、リ・らいふ研究会：5名

◆二本木地区の被害の実態

- 自治協議会会長さんが、地震による被災した家を赤色で地図にプロットしたら、真っ赤になるほど被害が多かった。
- り・らいふで、二本木1丁目と2丁目の被災状況を地図にプロットしたら、かなり被災していることがわかった。

◆二本木地区の復興の課題

<人口>

- 震災前に比べて人口が減ってきている。古町校区で200世帯減った。高齢者の割合が高い。

<住まい>

- 被災した住宅を更地にしても狭小敷地のため、二世帯の家族で住めない。3階建にすると工事費が高くなる。
- 高齢者が建替えを行うには資金負担が困難である。
- 高齢者が「みなし仮設」に住んでいるが、当地区に戻って来れるかどうかかわからない。
- マンションばかりの開発が多い。
- 平成30年度までに、5棟マンションができる予定。住戸数が250戸できるが、単身者用が多い。
例：（仮称）GLC二本木EAST
全戸数52戸 内訳：1LDK(42.75㎡)26戸、1K(30㎡)26戸

<商業>

- お客さんが1割～2割減っている。
- 被災したテナントは二本木で商売を継続したいという人が多いが、当地区にもどってこれない。個人事業主が多く、家賃が高くなってしまふ。グループ補助の要件があわない。
- 商店がなくなって、買物の場所が遠くなっている。高齢者にとって大変。
- コンビニができて、儲からないので撤退してしまふ。
- 商店がなくなると、まちに住む人が少なくなる。高齢者は住めなくなる。

<その他>

- 道路が狭い。電柱があるのでさらに狭くなっている。

○イメージがくらい

◆二本木地区の復興の考え方

<住まい>

○人のふれあいや人付き合いのできる「マンション」にしたい。

<商業>

○「二古二古会」は、発足して3年目。会員は40代~50代が中心となっていて、まちづくりを進めている。

○飲食店ができると、その賑わいが、まちのにぎわいにつながる。

○合同庁舎の所から東庵までの道路の賑わいがほしい。

○二本木地区の商店は、通り沿いに集まるなど、集約する。

○店舗を誘致する。特に、二本木にある店舗が入れるような仕組みをつくる。

<コミュニティ>

○自治協議会では、子どもから高齢者まで、参加できる行事を行いたい。去年は、3校区合同で、花火大会を開催した。

○「二古二古会」では、去年は、二本木児童夏祭りを行った。

◆り・らいふの関わり方

○り・らいふ研究会は、二本木の復興のために、二本木のみなさんの意向を大事にしながら話し合いを行って、復興の力になりたい。利潤追求を目的としているのではない。

○復興の考え方について、東京都練馬区江古田地区の店舗と住まいを確保した共同建て替えを紹介する。

勉強会の様子



別紙：二本木の被災の実態

